

テーマ2

焦らずしつけを

【ねらい】

後片付けについての事例を通して、後片付け等のしつけにおいてどのような言葉かけが有効かを考えるとともに、しつけ全般についてのポイントを学ぶ。

【活動の流れ】

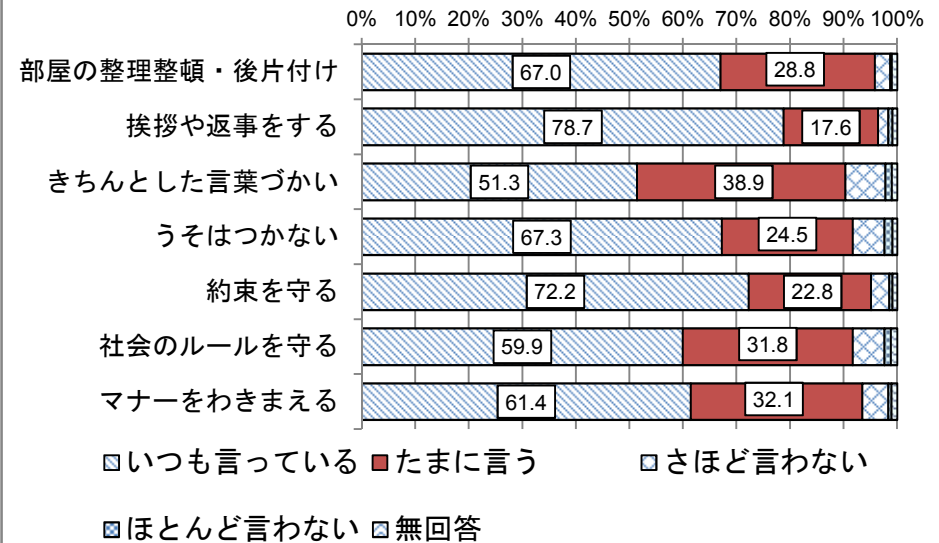
- 1 事例を読み、後片付けができないときの言葉かけについて、4つの中から近いものを選びその理由をワークシートに書く。
- 2 ワークシートに書いた理由を発表し、話し合う。
- 3 後片付けにこだわらずしつけ全般について、気をつけていることをワークシートに書き話し合う。
- 4 話し合いから参考となるしつけのポイントを書き、参加者同士で交流する。
- 5 話し合いのまとめを行い、参加者が実践できるように意欲づけをする。

【支援のポイント】

- 事例の会話については、ファシリテーターが親役をする等の役割演技を行い、事例の場面がイメージできるように努める。
- 子どもは家庭での約束やルールを守ったり破ったりしながら、人との関係のあり方や社会のルールの大切さを学び成長していくものであることを知らせる。
- 事例の後片付けに話し合いが終始しないよう、しつけ全般に話し合いが広まるように配慮する。
- 叱られる側の子どもの立場になって考えてみることも、しつけを行うときには大切なことを伝える。
- しつけをするときには、子どもの特質をよく理解し、子どもにあった方法でしつけをすることの大切さを知らせる。
- 問題に見える子どもの行動も、親や大人が丁寧に対応することにより、個性として育つようになることを押さえる。

【参考資料】

家庭で普段から口にして教えていること



対象：小学校5年生保護者（全国）

【平成28年度 教育に関する保護者の意識調査報告書（公社）日本PTA全国協議会2016】

○感情にまかせて叱ることとしつけとは違う

しつけは大切ですが、しつけなくては、と言う気持ちから、ついたたいてしまい、その行為に歯止めがきかなくなってしまう場合もあります。子育てのイライラやストレスが、子どもへの愛情を忘れさせ、叱るという行動にすりかわっているのではないのでしょうか。

上手な叱り方のヒントは、「叱られる側」の子どもの立場にもなって考えること。

「そう言われたら子どもはどう感じるだろうか。」「子どもはどう受け止めるだろうか。」まず、ここから考えてみましょう。

子どもたちは、家庭でのルールや約束を破ったりしながら、人との関係の在り方や社会のルールの大切さを学んでいきます。

【文科省発行 「ワクワク子育て 家庭教育手帳小学生編」